

外 部 評 価 書

項目	外部評価委員による評価	次年度に向けての方向性
<p>確かな学力の向上</p>	<p>《強み》</p> <p><u>さわやかタイム（朝学習）で、基礎学力向上をはかる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわやかタイムの取組が学校で統一されており、また教員による評価も適切に行われている。 ・各学年にてC R T検査を実施し、それを基に弱みについて指導方法などの研究や努力がなされている。 ・毎日、短時間に集中して国語、算数に取り組み、継続することにより、児童が自信と意欲をもち、学力向上につながっている。しかも前学年分を含めて反復することにより、基礎・基本がより身に付き、児童全体がレベルアップしている。 ・前学年の復習を取り入れていくには苦労は多いが、理解の低い児童の底上げにつながっており、重要である。 <p><u>授業改善を行い、国語・算数の学力向上をはかる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「年一回」という活動の指標や、指導主事による評価などの成果指標がきちんと設定されている。 ・各学年におけるC R T学力テストの結果が全国平均に比べて上回っており、各教員が昨年の結果を分析して改善策を日々の授業に生かしていることは大変評価できる。 ・少人数学級ならではの個人個人の対応ができています。児童のアンケート結果からも「学校は楽しい」「勉強はわかる」の評価が大半であり、教員の努力がうかがえる。特に4年生の担任教員による基礎学力の向上を見据えた「百マス計算」等の反復学習において、個々の分析や対応は成果が大きく、特筆に値する。 <p><u>家庭学習の習慣化をはかる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者との連携を密にした上での家庭学習の推進については、学級参観の機会も多くあることなどから、良好に進められており、保護者の評価も高い。 <p><u>読書週間：読書目標の設定、ボランティアによる読み聞かせ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じて国語力を身に付けるために、読書週間、親子読書キャンペーン、ノーTV（ゲーム）デイ等を設定して、本が好きになる機会や読む楽しさを覚える機会を作っていることは重要であり、成果が上がっている。 <p>《改善に向けての提言》</p> <p><u>さわやかタイム（朝学習）で、基礎学力向上をはかる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強がよくわからないという児童への対応について、指導方法の工夫・改善を検討してはどうか。 ・目標の周知と指標の具体化をより図る必要があると思われる。（計画表を職員室に表示するなど、活動や成果の進捗状況を一目で確認できるようにするなどの工夫を検討してはどうか。） ・学年1クラスの小規模校の中で、学級担任がもち上がる場合とそうでない場合で、学力の向上に差がでていないか。そのことの検証も必要である。 ・マンネリ化することなく、児童の興味・やる気・意欲を引き出すためにも、さらに継続していくことが大切である。 ・成果が上がった良く頑張った児童を評価する（たとえば賞状などで褒める）など、よい意味での競争力をつけることも検討してはどうか。 <p><u>授業改善を行い、国語・算数の学力向上をはかる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を定着させる朝の学習を有効にするためにも、繰り返し、反復など個に応じた指導をさらに継続することが大切である。 ・4年生の担任教員の指導方策を、その一部分でも学校全体で導入できないか、検討してはどうか。 <p><u>家庭学習の習慣化をはかる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習のアンケートからみて、学校での学習の取組が家庭でいかされているのか疑問である。家庭学習を習慣化させ 	<p>さわやか学習の成果の検証を明確にすることができた。課題としてあきらかになった、勉強がよくわからない児童への対応について、学校の重点課題として取り組みをはかる。</p> <p>基礎学力は全体的に向上し定着しつつあが、C R Tの分析結果からみると国語科の「話すこと・聞くこと」の領域が弱い傾向がみられる。「話す・聞く力」の育成は今後の継続課題として指導の重点にのせて育成することを共通理解し取り組みをはかる。</p> <p>児童一人一人の関心や習熟度に合わせた学習活動の工夫をはかり、授業研究、授業改善の取り組みを積極的に公開することにより、指導の改善に努める。</p> <p>基礎学力の定着のために家庭との更なる連携の強化をはかる。家庭学習は誰にでも必ず取り組ませる課題と、自主的に取り組む課題を用意し、取り組んだ結果を積極的に評価し、児童の意欲や能力を高める。</p> <p>本年度の取り組み（読み聞かせボランティア・読書週間・親子読書キャンペーン）をさらに推進するとともに、各学年課題図書を決めてその読了に取り組む。</p>

	<p>るために、学校側として具体的な方策をたてる必要がある。たとえば「帰りの会」などで、子どもたちに「家庭学習計画」を立てさせるなど、具体的な目標設定をさせたうえで家庭学習を進めていってはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読む力・聞く力・書く力」を付けるためには多くの時間が必要であり、児童に興味をもたせるには保護者の家庭での対応が大きく影響を与えるのではないか。保護者の協力を得るための方策を工夫する必要がある。 ・多くの児童が何らかの塾通いをしているとはいうものの、学習の基本は家庭（自分の机）における復習・予習であり、その大切さを児童・保護者ともども理解をして実行できるよう、指導する必要がある。 <p><u>読書週間：読書目標の設定、ボランティアによる読み聞かせ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子、家庭で読書の楽しさ、大切さを身に付けるためには、親の教育（義務）が必要である。また、読書感想の結果を感想文や親のコメントも入れながらデータとして取るのも良いのではないか。 	
<p>健やかな体の育成</p>	<p>《強み》</p> <p><u>遊び時間の確保</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、外で十分に遊ぶということがない状況の中で、意図的に時間を設定したことは、遊ぶ楽しさや友だちとの関係向上に大きな効果を上げたと思われる。 ・金曜日に児童全員が校庭に出て満足のいくまで遊ばせることは、「勉強と遊び」「年齢の上下」「人間関係の形成」などの点から大変有効である。少々の怪我や子どものけんかなどはあってもよい。それも大切な経験となる。 ・子どもたちに目標をもたせ、達成感を味わえるように指導されるなど、工夫がみられる。 <p><u>合同体育授業の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の閉鎖的になりやすい環境の中で、合同体育を取り入れたことは、いろいろな面で効果があったと思われる。 ・達成度の低い項目について細かな分析がなされている。 ・合同体育や授業時数30時間の実施、運動会などを中心に成果がみられる。教員の方々のご苦労がうかがえる。冬のマラソンも含め、汗を流して泥まみれになることは、大人になっても記憶に残る一コマである。 ・教員による「指導改善につながった評価」が「C」になっているが、このこと自身は問題ではない。学校全体で取り組み、実施できることが重要な評価である。 <p>《改善に向けての提言》</p> <p><u>遊び時間の確保</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足しなかった児童の意見を今後の改善に生かすことが必要である。 ・活動評価だけでなく、活動による成果を評価項目とした方がよい。 ・児童の遊び系の計画・実施は、児童の目線で行うことが大切であり、かつ有効である。是非継続されたい。 <p><u>合同体育授業の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による評価のうち、指導改善が「C」であったが、その原因を明らかにし、改善に役立てていく必要がある。 ・全校児童が少ない中、集団的な体育授業は難しいのではないか。 ・学校周辺は安全な地域であり、冬のマラソン大会や練習は体力向上のためにも継続していくことが大切である。 ・年間計画を策定する中で目標の明確化が必要である。運動能力や体力を事前・事後に測定することにより、その結果を授業改善に活用することが大切である。 	<p>本年度設定した金曜日の30分の業間時間確保は子どもたちにとって大変好評だった。特に「勉強と遊び」「年齢の上下」「人間関係の形成」などの点からも大変有効であり、また、体力の増強にも役だった。</p> <p>遊びは、人間関係の構築をはかる重要な場であると同時に児童が楽しみながら体力を増強させる場であると捉え、本年度の取り組みを更に推進する。できれば、時間の許す限り児童の中に教師もは入り、遊びを通して信頼関係の構築をはかるよう心がける。</p> <p>合同体育の趣旨を生かし、児童の体力・運動能力の充実をはかる。本年度課題となった教員による評価「指導改善につながった・・・」の改善を、年度当初に低・中・高学年の指導の重点の共通理解をはかり、年間計画を立てて計画的実施することによりはかる。</p> <p>児童の体力や運動能力を的確に把握し、客観的なデータをもとにして授業改善をはかる。</p>
<p>特色ある教育活動</p>	<p>《強み》</p> <p><u>専門家・地域人材の活用や地域の人とのふれあいを計画的に取り入れる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校近辺の川を中心とした環境教育を実施することにより、子どもたちの身近な場におけるゴミや水質汚染について、体験的に学習させているのが高く評価できる。 ・地域の自然を教育の課題に取り入れることにより、自然や環境の大切さに対して子どもたちの興味・関心を引き出す活動は、全学年を通して大切なことである。 ・安楽川、鈴鹿川での魚取り、田んぼの稲作、ゴミ拾い、植物や歴史など、広範囲にわたる教育に対して、教員や地域の 	<p>本校は創立以来、地域の特性を生かした環境教育に積極的に取り組んできている。本年度はその取り組みを学校から地域へと発信した。次年度も本年度の取り組みを継続し、保護者や地域と一体となった環境教育の取り組みを推進する。</p>

	<p>方々の努力、協力を敬意を表します。</p> <p>《改善に向けての提言》 <u>専門家・地域人材の活用や地域の人とのふれあいを計画的に取り入れる。</u> ・ゲストティーチャーを招いた授業を年間3回以上実施するという活動指標は達成できたが、成果指標もたてて児童の変容をみていく必要があると考える。 ・学習の場として、学校の近辺にとどまらず、現在の日本（世界）環境についても教育計画に盛り込んでどうか。 ・環境問題に関しては、地域からも学校に歩み寄っていくように、これから先も時間をかけて考えいくことが必要である。 ・活動を継続する中で、「自然」の中では、時には「鳥」の観察も取り入れてはどうか。</p> <p><u>学期に1回以上食育教育を実施する。</u> ・食育を実施する中で、家庭への働きかけはどうだったか、家庭での様子も把握する必要があるのではないかと不安である。 ・食育に関しては、家庭教育が第一であるように考える。将来子どもたちが親になったとき、「食育は学校で学ぶこと」と判断しないだろうかと不安である。</p>	<p>地域から世界へといったグローバルな視点での環境教育を須視診する。</p>
<p>信頼される学校</p>	<p>《強み》 <u>特別支援教育の校内体制が整備され共通理解が図れた。</u> ・施設の整備が充実され、教育が実施できているが、特別教室が空調等、全学年と平均化されていることも大切である。</p> <p><u>地域と学校が一体となった行事を積極的に展開する。</u> ・地域・保護者との連携を強化し、学校と一体化して、規則正しい生活を送るための「早寝、早起き、朝ご飯」運動を展開していることは、教育効果を上げることにつながっている。ただ、無理をせず、自然に地域の方々の参加を促せばよい。</p> <p>《改善に向けての提言》 <u>特別支援教育の校内体制が整備され共通理解が図れた。</u> ・研修会や公開授業を実施したことの成果を図るため、何を目標としたのかの評価指標を設定できないか。</p> <p><u>学校・保健・学年だより等の内容充実をはかる。</u> ・学校通信を通して、保護者や児童、教員によるアンケート結果の報告と分析、今後の取組方策を明記することが大切である。</p>	<p>特別支援学級（せせらぎ学級）の授業の様子を積極的に公開し、特別支援教育の理解と支援をえる。また、学校通信で本校の特別支援教育の様子も詳しく知らせることができた。次年度はさらに研修を深め、情報を公開しながら、井田川小校区の特別支援教育の拠点となるよう発展させていきたい。</p> <p>本年度は昨年度より、PTA総会、役員会・委員会、家庭教育学級で、教育活動の成果、児童の様子、教育課題について等、説明する機会を意識して増やしたり、また、学校通信等でも学校の経営方針等について情報提供を行ったりして、学校・保護者・地域の連携を推進した。保護者・地域も学校行事等に積極的に参画を得ることができた。次年度も引き続き推進を図る。</p>
<p>学校運営</p>	<p>《改善に向けての提言》 <u>会議の精選・会議を時間内に効率的に行う。</u> ・効率的に行うことによってどのようなメリットが生まれたかも明らかにし、さらに効率化を進めていくことが大切である。</p> <p><u>その他</u> ・多岐にわたる活動を行っており、その活動そのものや成果も高く評価できるが、教員の過負担になっていないか心配である。活動の目標を絞り込むことで、「継続していくもの」「やめていくもの」を明確することも必要である。 ・アンケートの取りっぱなしに終わることなく、アンケートの結果をどのように活用するのかを明確にし、共有することが必要である。当年度末内には結果分析と改善策を提示し、次年度の目標・行動計画等を策定し、提示するなどの取組が必要であるとする。 ・教育活動を行うに当たっては、現状の把握・分析・測定を行い、課題を明確にするとともに、具体的な目標（評価指標も含む）を設定した上で活動計画を立て、実践後または実践途中で達成度の検証・評価を行い改善に努めていくことが必要である。</p>	<p>本年度末には学校評価結果の検証を行い、改善策を提示し、次年度の目標・行動計画等を策定する。</p> <p>P D C AサイクルのP（目標）のところで、職員の一人一人の意見を反映させ、より具体的なP（目標）にして、実践途中の達成度の検証・評価をはかりながら、目標達成をはかる。</p> <p>アンケート結果や教育活動状況等は学校通信を通してその都度その都度情報提供を行う。</p>